



# 小倉百人一首かるた大会

第三十六回



六月十日・十六日・二十四日の三日間の日程で第三十六回小倉百人一首かるた大会(主催〓宗像大社、全日本かるた協会、主管〓九州かるた協会、後援〓宗像市教育委員会)が、清明殿・斎館で開催された。

例年は二日間の日程で行われていたが、近年のかるたブームにより参加者が過去最多の三七五人となり、初めて三日間の日程で行われた。

大会一日目、十日は高校生・大学生・一般を中心に約一六〇名が参加し、C級、D級の試合が行われた、各級とも夕刻まで熱戦が繰り広げられた。

大会二日目、十六日は初心者級の試合が行われ、小・中学生・シニアの部の試合が行われ、約一二〇名が参加し、拙いながらも激しい試合が行われた。

大会三日目、二十四日はA・B級(有段者)の試



次の100年、  
人間には  
何ができるのか。

出光



暑中御見舞い申し上げます





その結果、大阪で高校の教員を務める、大阪大学かるとた会所属の池田諒氏がかかるた歴七年目にして嬉しい初優勝を勝ち取った、また地元福岡だけではなく県外、

合が行われ、九州は勿論の事、遠くは関東・関西、さらにはタイのかるた会からも実力者が集まり約百名が参加し、非常に高いレベルの試合が行われた。激しい雨により九州新幹線が遅れ、鹿児島からの参加者が定刻に到着出来ないというハプニングが起きたが、夜間にまで及び激しい攻防戦が繰り広げられた。

国外の選手も慣れない環境の中善戦していた。今大会は前例に無い大規模な大会となったが、大会関係者・選手の協力により大会は無事終了。試合中は闘志をむき出しに熱戦を繰り広げていた選手たちも、試合終了後は互いの健闘を称え合い、来年の再戦を誓い大社を後にした。

第36回 全国かるた競技宗像大会成績表

- A級 / 47名  
優勝 池田 諒 (大阪大学かるた会)  
準優勝 富澤 清彦 (府中白妙会)
- B級 / 44名  
優勝 廣部さゆり (広島県かるた協会)
- C級 / 50名  
優勝 久保翔太郎 (山口県かるた協会)
- D級 / 110名  
優勝 植山 怜奈 (中津ややま会・大分県)  
塩津 茉那 (中津ややま会・大分県)  
桑原 慶 (足立かるた会・福岡県)
- 初心者級 / 114名
- 中学生以上 / 43名  
優勝 中畑 朱里 (宇美かるた会・福岡県)  
神原 真 (北九州かるた会・福岡県)
- 小学生 / 60名  
優勝 村岡むつみ (樋田かるた会・大分県)  
植山七奈子 (中津ややま会・大分県)
- シニア級 / 11名  
優勝 藤木美千子 (行橋かるた会・福岡県)

中津宮祇園祭

去る七月十五日午後二時より中津宮の末社・須賀神社において祇園祭が斎行され、この神賑行事として山笠が奉納された。

当日は梅雨時期とは思えぬ快晴となり、猛暑の中の祇園祭であったが、祭典が近づくにつれ法被姿の島民が続々と参集、大島地区山笠保存会会長(宮本俊久氏)以下関係者が玉串を捧げ祭典は滞り無く納められた。

祭典後には大島小学校児童により「磯っ子太鼓」が奉納されると、それを合図に島の子供から大人まで島を上げて山笠が担



大島祇園山笠は終了した。

がれ、大小四台の山笠が勇壮に島内を疾走、沿道では各家々から力水を掛けられ、更に勢いを得て山笠は勇み進んだ。

恒例の行程を巡行し終えた山笠は午後四時頃にはこども広場に納められると、一同で祝い唄を歌い上げ、またこの度、男女ともに筑前大会に進んだ大島中学校バレーボール部壮行を行い、男女各主将から意気込みと応援のお願いがなされると島民一同大きな声援と拍手でこれを応援した。

こうして終始賑やかに熱気を帯びたまま本年の

提案から、設計、施工、メンテナンスまで 住宅用・産業用太陽光発電はIDEX



屋根には、資源が降り注いでいる。



御社には、屋根という資産がある。

株式会社 新出光

0120-89-9933

受付 9:00~18:00 (土日祝日もOK)

IDEX太陽光

検索

http://www.eco-idex.com/

暑中御見舞い申し上げます



# 巫女・神楽舞講習会

〜神社音楽協会・磯部先生をお招きし〜

まで自主練習を行い巫女達は正しい神楽舞を

七月二〜四日迄の三日間、神社音楽協会より磯部恵子先生をお迎えし、神楽舞をご指導いただき、平素見落としがちな癖をはじめ諸々ご指摘いただいた。

巫女職は現在十二名、神社が落ちついているこの時期に、例年神楽舞の講習会を実施し研鑽に努めている。期間中は社頭状況をみながら交代で参加し、温習終了後も夜八時過ぎ



身につけようと懸命に取り組んでいた。

磯部先生には、指先、足先まで神経を集中させる事、「巫女は神楽を舞うことにより大神様

にご奉仕している姿勢をみせることができる。だから気持ちの込もっていない舞は絶対に舞ってほならない」と舞に

対する基本的姿勢についてなど熱心なご指導をいただき、受講した巫女からは「舞に対する気持ち



来年の講習会では更に成長した姿を磯部先生にご覧頂きたい。

ちを新たにすることができました」等の声も聞こえた。

本年は恒例祭等で奉奏する「浦安舞」の習得に力を入れ、最終日には大前で奉奏し、講習会を取り修めた。

磯部先生は神社音楽協会講師として、住吉神社(福岡)等で神楽舞をご指導されながら、神職としても櫻川磯部稲村神社(茨城県桜川市)でご奉仕されている。今後も温習を重ね、

# 宮大工 小川三夫氏参拝

六月二十六日、宮大工・寺社建築の重鎮、小川三夫氏が当大社を訪れ、重要文化財の本殿・拜殿を視察し参拝された。

同氏は法隆寺や薬師寺の修復を手掛け、日本一の宮大工と呼ばれた西岡常



の建設会社「鶴工舎」を創設し、斯界の第一人者として活躍されている。

一氏の唯一の内弟子で、寺社建築専門で、本殿・拜殿の御屋根修復に向けて貴重なご意見を頂いた。

同日は当大社の同氏益々のご活躍をお祈り致しております。

九州新幹線で、まだ見ぬ楽しいに、スグ会おう。

笑う。熊本・鹿児島

検索



暑中御見舞い申し上げます



# 沖ノ島生態調査報告

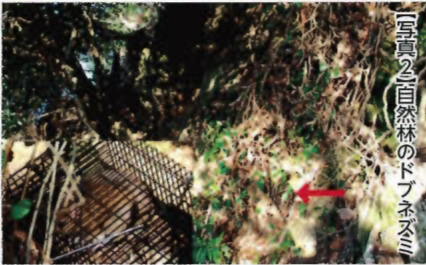
後編 武石 全慈 (北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員)

カムリウミスズメと  
ネズミの現状

前号では、天然記念物カムリウミスズメの小屋島と沖ノ島での今年の調査結果をご紹介しましたが、その調査の際には両島でネズミの捕獲も行ないました。

小屋島では一九八七年と二〇〇九年にドブネズミの侵入があり、繁殖中のカムリウミスズメやヒメクロウミツバメが食べられてしまいました(本誌第五七七号、五九七号参照)。今回、小屋島では三月二十七日の夜に生け捕りワナをセットしましたがネズミは捕獲されず、今のところ再侵入はないようです。

一方、沖ノ島では、三月二十七日と二十八日の夜に港から山頂(標高二四四㍎)までの山道沿いに生け捕



りワナをセットしたところ、港の社務所わきで一匹(写真1)、中腹の自然林で一匹(写真2)、山頂の灯台わきで一匹(写真3)のドブネズミが捕獲されました。なお二〇一〇年にも港周辺で五匹、標高二〇〇㍎までの自然林で六匹のドブネズミが捕獲されています。

ドブネズミはいわゆる家鼠類の一種で都会や村落などが住んでいる所にいます。しかし沖ノ島では、人が出入りする港から沖津宮(標高九十㍎)までの間だけでなく、それより上の無人地帯の、山頂までの自然林にも生息するという特異な分布を示しています。



でもドブネズミは以前から沖ノ島にいたわけではありません。五十四年前の一九五八年の九州大学平岩馨邦氏の調査では、別の家鼠類のクマネズミだけが港から山頂まで分

布し、ドブネズミはいませんでした。当時の波止場には漁業小屋や漁港修築工事の作業員の飯場があり、また灯台には灯台要員の官舎がありました。人が滞在するこれらの場所ではクマネズミの捕獲率は五十五%にもなり、十個のワナ当り約六個のワナにかかるといふ状況で、極めて高い生息密度でした。また自然林内では二十%でしたが、これもかなり高めの密度と言えました。

島の村落にはクマネズミとドブネズミの両方が入り込んでいるのに、なぜ沖ノ島にはドブネズミが見られないのかについて考察し、「ドブネズミの搬入される機会が未だなかったとしか考えられない」として、「漁港修築工事が完了して容易に接岸可能となり交通量が増してくればドブネズミの侵入機会は多くなる」と予測しました。

果たして、その三十四年後の一九九二年、沖ノ島では初めてのドブネズミが港周辺で二匹捕獲されました。そして二〇一〇年には自然林

We Fly 1st. 787

いちばん先の景色へ。

ANA

暑中御見舞い申し上げます



内へも広がっていたわけです。沖ノ島港の整備拡充と資材運搬用台船の寄港、漁船・釣り船等の高速化と頻繁な寄港などの結果、平岩氏の予測通りにドブネズミが沖ノ島に入り込んだものと思われまます。

また、興味深いことに、二〇一〇年に沖ノ島でドブネズミが十一匹捕獲された際には、クマネズミはわずかに二匹が港周辺で捕獲されただけでした。また、今回はクマネズミは捕獲されませんでした。一九五八年には沖ノ島を占有していたクマネズミも、体重や攻撃能力で勝るドブネズミに押されて、今では港付近に少数がいるだけになってしまったようです。

このようにドブネズミが沖ノ島に普通に生息するようになったことは、小屋島のカムリウミスズメやヒメクロウミツバメにとってはかなりの脅威です。小屋島は沖ノ島から一〇離れています。海外では二〇離れて島へドブネズミが自力で渡った例があるからです。

なお前号で、海上センサスの結果



から、沖ノ島の北部や北東部でカムリウミスズメが繁殖している可能性が高いことをご紹介しました。沖ノ島の南端にある港から一番離れたこれらの場所では、ドブネズミはまだ広がっていないか、又は急峻な崖

### 神道行法「禊」練成会に当大社神職参加

神社では「清め」や「祓い」といった心身の清浄を旨としており、この時期に各県・全国単位で禊研修会が催され、当大社からも神職が参加し研鑽を積んだ。

七月十日には福岡県の禊研修会があり、熊野神社(大牟田市)へ三名の神職が参加、これに並行して同九日・十二日迄の三泊四日の間には、禊行法の指導者を養成する練成会が、石上神宮(奈良県)で開催され、



石上神宮での禊行法の模様

この神道行法は大きく「禊祓行事」と「鎮魂行事」に分かれ、禊祓行事は神話に登場する伊邪那岐命の禊祓に由来する。鎮魂行事は古代物部氏より伝承されたものが、その氏神である石上神宮に伝えられ、門外不出の秘事とされて来たが、神職修養の行法として戦後公開され、

各地に広まったものである。文字通り「たみしずめ」の行法である。日本の心が失われつつあると言

われて久しい現代、この「禊」も神界に生きる我々が次世代に継承しなければならぬ、大切な神社の信仰の一つである。

私たちは生活者の立場で考え、顧客の立場で行動します。

私たちはユーザーの気持ちを的確に捉え、企業戦略から空間、個々の商品、サービスに至るトータルなステージで「デザイン」の力を発揮し顧客の企業価値の創造のお手伝いします。



株式会社ジーエータップ  
http://www.ga-tap.co.jp

福岡事務所

福岡市博多区綱場町2-2 福岡第一ビル1F 〒812-0024  
Tel 092-291-8801 Fax092-291-8805

東京事務所

東京都千代田区九段北1-13-1 九段中坂ビル3F 〒102-0073  
Tel 03-3221-1735 Fax03-3221-1736

暑中御見舞い申し上げます



# 第21回 宗像大社氏子会研修旅行 〜兵庫県 生田神社 正式参拝〜

第二十一回宗像大社氏子会研修旅行が、宗像・福津両市内より十九名の参加の下、七月二日〜四日の二泊三日の行程で開催され、兵庫〜香川方面へと向かった。

新門司港より阪九フェリーで大阪・泉大津港に到着、まず兵庫県生田神社へと向かった。

同神社は六甲山の緑を背に、神戸の中心地三宮の中央に鎮座、繁華街



生田神社にて

だけあって周囲はビルが立ち並んでいる。正式参拝後、同神社の神職より御由緒をはじめ、社殿裏の「生田の森」にある源平合戦で知られる大楠なども御案内頂いた。

また同神社は阪神大震災の折、社殿倒壊といった最も被害の大きかった神社でもあり、現在の拝殿は耐震構造にされているとのことであった。

到着時は激しかった雨も、神社出発時には上がり、一行は生田神社を後にし、大河ドラマの映像や豪華衣装が展示された「平清盛歴史館」。

「ドラマ館」で、平清盛の誕生〜生涯までを見学し、姫路城へ向かった。姫路城は昭和三十九年以来の改修工事中で、工用の仮設で覆われていたが天守閣と対峙するように見学場所が設けられており、そこから工

事中的天守閣を間近かに目にするこ  
とができた。  
一行は日生港〜香川県の小豆島へ  
と渡り、小豆島温泉で一日の疲れを  
癒し、夕刻の懇親会では瀬戸内海  
の幸を堪能し親睦を深めた。  
最終日は、まず寒霞溪のロープ  
ウェイから小豆島の岩石・山景色を  
一望し、「二十四の瞳」で知られる岬  
の分教場で昭和初期を再現した小  
学校を訪ね、参加者一同懐かしい気  
持ちで見学されていた。  
昼食は小豆島の名産として知られ  
るオリーブ園でとり、島を後にした。  
JR岡山駅より新幹線にて帰途につ  
き、旅は終焉をむかえた。  
道中病気や事故も無く、大変有  
意義な思い出に残る研修旅行となっ  
た。今回の研修に際し、ご案内いた  
だきました生田神社の職員の皆様  
方には紙面を借りまして厚く御礼を  
申し上げます。

## 三笠宮崇仁親王殿下 御病氣平癒祈願祭齋行

当大社と由縁深い三笠宮崇仁親王殿下の御容態悪化との報に接し、七月八日午前十一時より本殿にて御病氣平癒祈願祭を齋行し、御回復を祈念する祝詞を奏上した。

三笠宮殿下には、昭和四十四年の

第三次沖ノ島学術調査御視察、同五十年には百合子妃殿下と共にご参拝いただいている。

現在は御体調も安定されているとのことだが、一日も早い御回復をお祈り申し上げます。



九州産の小麦を使用したサブレです。



**宗像大社 御神菓調製**

御菓子處 **石村萬盛堂**  
〒812-0028 福岡市博多区須崎2-1  
TEL 092-962-5000

暑中御見舞い申し上げます



(続)

# 浜の寄物

269

いしただし



七月上旬に、芦屋の田代恒雄氏の案内で、北九州市若松区洞海湾口(響)の軍艦防波堤に行ってきた。

十時半に、J R折尾駅で落ち合い、車の運転は出版社に勤め、北九州市内に詳しい山口健二郎氏がしてくれた。

梅雨の最中だったがこの日は晴天で、爽やかな風が吹いていた。道に疎い私は、どこをどう



通ったかは説明できないが、大きな工業団地を通り、海岸に出ると、その先に、防波堤が突き出ていた。ここが軍艦防波堤であつた。大和を護衛した冬月、涼月、そして第二次大戦の「柳」の三駆逐艦が一行に並んで防波堤となっていたが、先の二艦は完全にコンクリートで覆われて、その姿はつかめない。柳は艦首の部分が少し高くなって残されていた。

艦の吃水線の部分から下がコンクリートで固められていて、艦の形が分かる。幅約二〇cmの



柳は基準排水量、七五五屯、全長八十五m、幅七・七四m、速力三十一・五ノット。大正六年

に佐世保海軍工廠で竣工、桃型二等駆逐艦。

大正六年六月、第二特務艦隊、第十五駆逐艦として地中海へ派遣された。

大正三年(一九一四)第一次世界大戦がおこった。

三国同盟(独、土、伊)

と三国協商(英、仏、露)との対立で、日本は日英同盟の好みで、英仏側につき独と戦い、独がも

つ中国山東省の租借地、青島を攻略し、カロリン、マーシャル、

マリアナの群島も占領した。ヨーロッパでは地中海を中心に、

ドイツ海軍の潜水艦(Uボート)が連合国側の輸送船や商船を

攻撃し、多大な損害を与えていた。そこで連合国からの要請を

受けて日本海軍が地中海へ軍艦を派遣したのである。派遣され

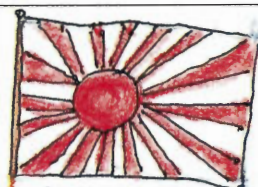
た軍艦は旗艦「明石」の下に「桂」級駆逐艦八隻、後に出雲、

日進と旗艦を交代「桃」級駆逐艦四隻も加わって旗艦を入れて

十三隻。地中海での日本海軍の拠点は地中海の心臓部というベ

キ、シチリア島の南方にあるマルタ島で一八一四年以降、イギ

リス領となっていた。日本艦隊は六年に鵬程万里の長途に船出



海軍旗



二の軍自艦が地中海をまわりまわっていたなんて

り、マルタ港に到着。連合国側の輸送船や商船の保護にあたった。約一年半の間に、艦船延べ七八八隻、乗客や兵等七十五万人及び、「地中海の守護」と称賛された。日本海軍の地中海遠征は、紀脩一郎の「日本海軍地中海遠征記。第一次世界大戦の隠れた戦史、原書房昭和五十四年」に詳しく記されている。

尚、若松区の高塔山の中腹には三艦の慰霊碑があり碑の前には柳の双繫柱が固定されている。裏面には防波堤の看板は柳の屯数や長さが異なっているが、これは太平洋戦争末の昭和十八年から終戦まで建艦された駆逐艦三十二艦で、うち二〇艦が終戦まで残存した。碑の柳は二代目が記されていて間違いない。

尚、若松区の高塔山の中腹には三艦の慰霊碑があり碑の前には柳の双繫柱が固定されている。裏面には防波堤の看板は柳の屯数や長さが異なっているが、これは太平洋戦争末の昭和十八年から終戦まで建艦された駆逐艦三十二艦で、うち二〇艦が終戦まで残存した。碑の柳は二代目が記されていて間違いない。



第六二二回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区

豊田 光子

山菜莫を口にふくめばほろにがし戦いの果て夫逝かしめぬ  
ほろ苦し山菜莫に連想するのは戦死した夫君。終わりのない悲しみが静かに詠まれている。結句は、原作では作者が逝かせたようなので(夫は逝きたり)に。

福津市 若木台

山崎 公俊

まなつひる宗像大社の高宮の忍者の群よ文武と襲ふ

蚊を忍者に見立てた面白い歌。しかし、どこかに蚊と入れたいので、四句を(忍者なる蚊が)としたい。初句は表記を(真夏ひる)とすると解りやすい。

宗像市 土穴

山本 静子

里山のごとくなりたるわが庭を「すてき」と云いしゆきすりの女  
草が伸びて里山の一部のようになった庭に困る作者と、それを見て褒める女性。意外な言葉に目を丸くし苦笑する作者が見えるようだ。

宗像市 日の里

大和美由紀

山寺の青葉の茂る心字池緋の色散らし稚魚は泳げり

鮮やかな色彩感のある、景が目にかぶ歌。稚魚は緋鯉だろうか、稚鯉と言ってもいいのでは。四句結句を倒置すると更に緋色の印象が強くなるだろう。

福津市 中央

池浦千鶴子

小春日に久に聞きたる波の音はらからどもと戯れし音  
海の近くで育った作者か、波の音に思い出すのは兄弟や姉妹との海での楽しい遊び。へ久々に聞く波音ははらからと戯れし春の思い出の音としてみた。

うきは市 浮羽町

向 則正

山峡を走るロッキーマン高速道野生の山羊バスを停める

旅行詠。ロッキーマン山脈でバスが羊に止められた一場面を切り取った。初句と二句は入れ替えへロッキーマン山峡を(羊)に。四・結句を(羊)にバスを止めらるる。

福津市 若木台

野間 精一

軒に下げ簷にひろげし玉葱は五百ばかりか肌つやつやし  
農家の軒下や庭のたまねぎに目をとめた作者。結句(つやつやし)が効いている。三・四句は疑問にせず(たまねぎの五百個ばかり)と言い切りましょう。

宗像市 田久

巻 桔梗

黄の線を出ず停まるまで席立たず便器にゴミを捨てず帰り来  
公共の乗り物で外出した作者らしいが、車内や駅でのアナウンスや注意書きのおせっかいに腹を立てているのだ。否定を重ねた表現が効果的。

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

避難訓練終へたる丘より眺めをり指呼の間なる玄界灘を  
丘の上上がる避難訓練なので津波対策だと思われるが、気がつけばすぐ近くに玄界灘が見える。津波も他人事ではないと、ひやりとした気持が伝わる。

宗像市 池田

森 龍子

梅の実を日々眺め遣る日記などめぐりて甕を洗ひて干さむ  
古い日記を繰り年々の梅仕事の日程を確かめ、梅漬け用の瓶を洗おうと思う作者。ベテラン主婦らしい歌。二句で切らず(日々眺めつつ)と続けては。

福岡市 南区

井田有久衣

讚美歌をふと思ひ出し口ずさむ幼き頃の記憶をたどり  
子供のころ教会の日曜学校か幼稚園で覚えた讚美歌が何かの拍子に記憶に浮かび口ずさむ作者。素直に詠まれ、内容と詠みぶりがよく合っている

宗像市 青葉台

山下 奈美

小さな手握るコインが届かぬとみくじ口にて子供らジャンプす  
手の届かない幼い子供たちがお御籤を引きたくて箱の前でジャンプする姿が可愛い。初句は字余りになるが助詞を入れて(小さな手で)に。

遺者詠

かみなりの音さかりゆくゆふまぐれ鯉の銀の背くりやにひかる  
風に吹かれ飛びしコンビニのレジ袋白鳩になり夏空に消ゆ

第五八六回

俳句作品集

宗像市 日の里

花田いつ枝

大絵馬の願ひに燦々夏日差し

8月祭事暦

- 1・15日 月次祭  
午前10時～  
高宮祭 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～  
総社祭 浦安舞奉奏(1日) 豊栄舞奉奏(15日)
- 7日 午後7時～  
中津宮七夕祭 於=大島・中津宮
- 15日 午後7時～  
宗像護国神社 千灯明祭 於=宗像護国神社

編集後記

梅雨が明け夏到来、本格的に暑い日が続いておられますが、ロンドンでもオリンピックが開幕し熱い戦いが繰り広げられていることでしょうか。さて今月七日の夜には、宗像本土から沖合十キロの大島に鎮座する、当大社中津宮で七夕祭が行われます。今日では全国各地で行われている「七夕」、実はこの七夕発祥の地とも言われるのが中津宮で、歴史を紐解けば少なくとも鎌倉時代にまで遡ることが出来ます。島を挙げて盛大に行われる歴史ある祭りに足を運んでみてはどうでしょうか。▼中津宮(本土)でも笹竹と短冊を準備してあります、参拝の折には願い事をお書き頂ければと存じます。自分はこの願い事を書いて見ました「日本人が活躍しますように」(ロンドン)に届きますように。(鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五

福岡県宗像市田島二三三一 (〇九四〇)六一二二二(代)

電話 宗像市 宗像会 宗像会

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円